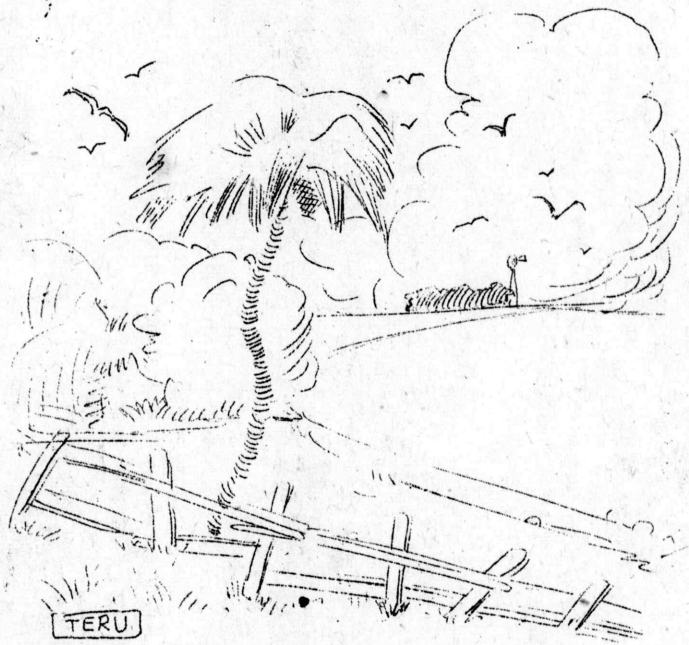


報時丁然尔亞
錄附藝文

廿九号

第四卷



TERU

Sep.
28
DE 1929

SUPLEMENTO LITERARIO

AÑO IV

Núm XXXIII

"El Argentin Dijo"

得して損した親方

(俳) ビエール・サンライエ作

「お見受申したところでは、旦那はお後人でおうつしや
いますか」
ボクエシエ博士の髪と剃りおから、理髪屋の親方は、
先づさから去ほうと思つてゐた言葉と、どうも口
いてしまつた。
「ホー、その見へるかね。僕は、はやりふい法医学者だ
い」
「お、それは、もつめの幸ひでした。何んて私は蓮の好
い男ふでせう」
と仰山に親方は飛び上つて、それから、やけに、にやけし
「如何でせう、念度お頭の方も大分伸びてゐますから
それをつまして頂く事として、その間に、ちよといはかり
御相談申上げたいのですか？」
「さうするほど」
博士は、びろりと横目で、するそふか親方の顔を見やつ
た。親方は急いで頭の方にとりかゝる。
「え、御相談と申しますのは、実は手前の妻の従兄
に當る男と、今は離婚してゐる女が、私の義父の義妹
に當る男と、義父は、一件義妹の財産を貰へるもので
あります。さうか、さうか」
「さうだね。六百十二條によれば、その相續は可能である
が、四百二十七條の二項に觸れるところがあれば、一問題
起らずはあらずまい」

「は、あ、血縁旦那のお頭は僅分が少くなりま
したか、如何でせう、即ちお髪をお洗ひにやりまし
ては、いや料金の程は……」
「うむ、やつてくれ給へ、だがよく乾してくれなさいと困るぞ。
頭から爪印を引くこと、僅分多量のだからね」
「はい、はい、さうで、さうさう、旦那はお医者の方、
なるほど、髪つても、さうさう、さうさう、さうさう、
で御座ませう、私は、おたつむりを、教件と、漬菜を、教
本たべましたので、どうも胸が重苦しく、大困りに困
てゐるのですか？」
「なるほど」
ボクエシエ博士は、タオルで頭を、ごしく、やりあげ
と叫んだ。
「重苦しくても、飲んでたまへ」
「へえ……なる程……え、旦那、旦那の花粉をお
しにふつたら、いかにせう、おけ、おけ、おけ、おけ、
茶で御座ませう……」
「さうも、やつてくれ給へ」
「さ、できました。少し、髪を、さして、さして、さして、
い、お動きにおつて、はい、はい、はい、はい、はい、
と、さうで、私の妻が、足に、たご、お出しました、さ
が、取れないで、困つてゐるので、御座ませう」
「なるほど、そんなものは、切り取れば、癒つちます、さうさ
「さやうです、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
う、腹痛を、起して、さう、さう、さう、さう、さう、
いませんのですか、さう、さう、さう、さう、さう、
「さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
「は、あ……では、お頭に香油をおかけ、致しませう
「さうさう、その姉の方は、さう、さう、さう、さう、さう、
「下刺をやるんだね」

「あ、旦那、ちよいと鏡をおあてしませう。その方
もつとお引立ちにかりますから。おや、マッチ
へ行ったかしら？」
「旦那の親方は、ホンメエシ博士のマッチを手にと
りかへてお返しします。」

「方もおついでに、とろろでうちの猫奴は、近頃
少し眠りすぎるやうで御座ますので……」
「おどろせるんだね。」
「から旦那の方は、すつかり毛を抜けてしまつたのです
ね。」

「黄ハマードと塗るんだね。」
「おはや、どうも色々ありだつた。御座ました。恰度す
つかりお頭もお顔もでき上りました。これでクリム
とつけ、香水を吹きますと……さ、これを宜しう御座
ます。ま、なんも綺麗におかりなういしました事やい
「やあ、ありがたう、ありがたう。」

「ホンメエシ博士は椅子から立ち上つた。
「え、と、一番大掛りな御化粧でしたので、お髪とお髪とで
一回、髪洗ひとマナーとで二回、鏡やハマード、その他で
三回、合計六回、五十銭のいたゞ……」
「理髪屋の親方は、こゝで勝ちほつたやうに、會計係の妻
に向つて声をかけた。

「六回、五十銭の、なるほど、ホンメエシ博士は、この
莫大の料金は、少しも驚く様子は見せなかつた。
「一寸待つて受れ給へ。僕の方は、まア友達の同柄と云
ふ事にして、辨護士としての相談料で、一回、医師としての
相談料で、一回、四十銭、教員としての相談料で、一回、
五十銭、合計六回、九十銭のお釣を貰はなくてはな
かぬ。え、と、おうそうく、それからマッチの資料をたれてわ
たし……」

評：

おっ、ア、ア、ア、
俺は寂しい

彦左

ドミンゴの午後
たつたニペンが、邪魔になる

紅い臍、膝に奉納しやうが
それとも、裸へほを一幕見やうが
うへにや、猿又の新しきでも買つてしやう
エ、イ、皆んふやのちやえ
それでお、ア、ア、ア、

明日の飯代はどうなるんだい
ペンションへ歸つてカマの上に
ごろつと、なつたら
急におつ、ア、ア、ア、悪しくなつた

寂しいけん、達者でどうやら
働いてるケンを、心して下され
「と手紙を書いたら
俺は眠くおつちやつた。」

一九三九・九・二一

何んといふか、有名な経済学教授で、音楽、美術、文学、其他あらゆるものに通じた博識の人だつた。ある。若し御希望だつたら、目下「ラ・レンサ」紙に連載中。探偵小説「El Extranero Casado del Obispo」をお読みなす。――（附言）

しかし主演者は最近メキクと賣り出したウィリアム・ホーエルと、レイズ・フルックだ。それである。映画は全然失敗してゐるのは、どうしてだらう。即ち例の推理するものが、この小説最大のヤマである事に起因するのだ。

然しその他に相当成功したものがあつてもよい。専ら本格探偵映画に精神してゐると傳へられてゐるクライブ・ブルック及び前記のウィリアム・ホーエル。其他オルガ・バクラノヴァやメアリー・グライアン、英演といふ素晴らしいスタイル・マスタの「忘れられたる顔」がそれだ。

これも原作は有名な小説であり、六七年前に「ヘリクス・トローア」といふ題名で別の俳優がつたのを私は見た事があるが、矢張り成功したものだ。これは「本格もの」ではあるが、相当藝術的気風の高いついで、やつこしい推理ふんがのふいふが、映画まであつたかも知れない。

それから同じくクライブ・ブルック、ウィリアム・ホーエル、エザ・エリン・ヴェント、ドリス・ケニヨン等共演の「インター・ミンシオン」も前記では無いが「本格もの」としては成功した方であらう。最近のニュースを見ると、ロナルド・コールマンが「アルドツグ・ドラモンド」を映画化したと云ふから、原作が活動向きだけに相当な期待は持てると思ふ。

免に前記の種類の映画に對しては、未だ「海のもの」といふものも極らふいだけでお茶を濁して置く。

「先づ影の交響曲」――そしてオハ藝術である。トコロ、映画界も、美術界も、古典派から自然主義、それから印象派、後期印象派と推移する如く、サリス・ベリヤからパレ・ンテ、そしてモダニズム、バンクローフにまで、モダニズムの嗜好が変化して来た。――本人もむもらしい術をいふ奴がある。それ程左様に、ジョージ・バンクローフの人氣は全地球の隅々に迄波及してしまつた。この調子で行くと、美術界が表現派から未来派に推移する如く、彼等驚々モダニズムの嗜好も、鼻のテッペンに付たり眼ざらしろに光つてる様を、變態性を帯びはしないかと、それ程猛烈な面を悲しいことに所有してゐる私は、今から心配してゐる次でアリマース。

附言、ジョージ・バンクローフの事ふんが、あつたり附けちやつてお次に移る。――といった所で、先日だつたら、あれも書かう。これも書かう。で、大分私の頭に残つてゐたやうだが、一日たつたら、もう何もあつたりない。

「ア・ダ・ラ・ラ」――ナザールロとノーマ・シエラーの共演。――「ア・ダ・ラ・ラ」を脚本に作り出したか？

有名な「ハイデルベルグの想出」の煙草をばほしです。「クライブ・ブルック」のバンドをもつて、マホでも「悪くはない」。

しかも此の節、マンキーに「ハッピー・エンド」から映画の面白味は少しは了解できる様になつたが、不思議だ。これこそ一つだ。

其他にも「チヨイ」がある。今迄私が挙げたのも殆んどそれだ。それから「オセテ」で賣り出したジマ・ネット、ゲイナ、及び「メーレス・フアレス」共演の「術の天使」も、この挙げるとく、價値はあらう。

壁と彼

SEBASTIAN

白紙の下宿屋の一室。
 茶色にすけてしまった壁と、十燭の鈍い電燈が、
 はんやりと照らしてゐた。
 彼はそのすけた壁で、ローマッチをすった。
 ニーンと音を立て、マッチが燈火した瞬間彼の
 影が横側の壁にうつる。
 彼はそこに残された白いすり跡を眺めながら煙
 草に火をつけた。
 壁には一枚の絵がぶら下つてゐた。
 その絵は、彼の友人である画家が、彼の爲めに特
 に書いてくれたと云ふ若い女の物思ひにふけてゐ
 る絵だつた。
 電燈のせいでも、余計淋しうらに見へる。
 そのうなだれた物思ひにふける若い女の首のあたり
 をタバコの煙が、すすりに漂つて、フワリ〜ともつ
 れ合つては天上のうへへ、とられてゐた。
 彼は以前、この壁に、裸体画を掲げて眺めたことが
 あつた。
 しがしその裸体画を掲げた晩、その絵を見てゐる
 中に、何んとも云へない怪しい衝動が絵の中からタ
 バコの煙を渡つてきて、彼の心を苦しめた。
 彼は、その絵と、茶茶苦茶に引きやぶいて肩籠の
 中へた、さ、込んでしまつた。
 壁には取り残された一枚の絵だけが、憂鬱にす、
 けてゐた。
 として、その絵は、憂鬱のありつたけを彼の心に注が
 せ込んでしまつて、今では壁と同じやうに、せらんと

して、すけてしまつてゐるに過ぎなくふつた。
 彼は壁でマッチをつけて、三本目のタバコに火をつ
 けた。
 (一九一九・九・三)

見たまゝの記 (四頁のつゞき)

其他「トキ」なるものは未だ沃山ある。
 前記の如く、今迄の映画が、所謂「ハル」であるならば
 「トキ」はオレ藝術でなければならぬと——人は
 云ふ。
 勿論これにも七面倒臭い理由があるにはあるが、何の故
 にも立たないから省くとして「トキ」は「トキ」とし
 て全然別に考慮しなければならぬとだけ申添へて
 おく。
 エーとそれから……二人の事を書き並べておた日
 にや、切りやないから、い、加減の事を絞つて、THE
 ENDと云ふことにしよう。
 (正誤：前項「ラン」を「スカ」ベルティニ
 「スデ」を「サ」とあるは「スデ」の間違い)

歌： 近詠

見子

ふとあけし古き手袖に若き日の
 涙にじめる文の虫をけり。
 春雨のそほ降る夜をたぐひ人
 すずし思ひでなつたしむも。
 野に行きて泣かんと思ふ此頃の
 われにも知れぬにふるかみ。

群が固くとドクトルの難かしい顔が何事かを豫告する
様に彼の方へ近寄った。

「先生もう見込はふいでせうか。もう駄目でせうか。」

先生、本當の事を言つて下さい。お頼みです。……」

ドクトルは一寸困つた様子をしてみれば、

「……先生、見込と申しますか……？」

「……先生、もう助からずいでせうね。時病も血を吐く
様になつちや。」

ドクトルは一寸の間、首をかしげて彼を見つめて居たが、

急に笑ひ出した。

「……時病ですつて……素人の方はそれだ
から困りますね。セニョーラは唯一寸風邪を引いた
だけです。」

「……先生、大分たぐれまゐりますが、ナニぢうに癒ります
か。出血したのもそこから打つのです。」

「……先生、おれはありませぬ……」

茫然としてドクトルの顔を見つめた彼は、悪夢から醒
めた様に一言も言はず、急に隣室へ走り込んだ。

ドクトルも、いさゝか、あつげにとられた形だつたが、隣室
から流れる

「……」と云ふ柔しい声を聞いた時、ニコクして帽子と外套
を手にとつた。

(おあり)

幸福論

ヒエロニムス

「ヒエロニムス曰く『幸福とは人生闘争中の一時的休戦状態
なり』」

「シヨベンハウエル曰く『幸福とは告白と隠せざる不幸者の
外観なり』」

「ニクソイエ曰く『幸福とは味をつくらざる不幸の調のせ』」

「スカンジナヴィアの哲学者曰く『幸福とは？。それはまさに死
ふんとせる一遊屋の最後の光りか、一千年を経て漸く地
上に到達せるもの。我地球も亦するに死せる遊屋ホる
に、自分の死を知らずして沼上の表にこれと反映す』」

「X夫人曰く『幸福は我にあり。テコブラ街十二番地、中
二階、左側の扉を、深夜二時にノックしたまへ』」

(マンガートボイスより)

詩…… 思ひ出

塔小舟

春の夕の

夕風吹けば

そなたを思ひ出す

グエテの恋と

思ひ出す

泣いて別れた

あの夜と……